潰瘍性大腸炎の寛解導入における経口摂取の影響に関する研究

2010 年 1 月 1 日から 2019 年 7 月 31 日までに潰瘍性大腸炎のために入院治療を受けた患者さん

研究協力のお願い

当科では「潰瘍性大腸炎の寛解導入における経口摂取の影響に関する研究」という研究を行います。この研究は、2010 年から 2019 年までに日本医科大学千葉北総病院消化器内科にて、潰瘍性大腸炎のために入院治療を受けられた 20 歳以上の患者さんの、寛解導入に対する食事の影響を調査する研究で、研究目的や研究方法は以下の通りです。直接のご同意はいただかずに、この掲示によるお知らせをもってご同意を頂いたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の主旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。この研究へのご参加を希望されない場合、途中からご参加取りやめを希望される場合、また、研究資料の閲覧・開示、個人情報の取り扱い、その他研究に関するご質問は下記の問い合わせ先へご連絡下さい。

（1）研究の概要について

研究課題名：潰瘍性大腸炎の寛解導入における経口摂取の影響に関する研究
研究期間：2019 年倫理委員会承認後～2025 年 3 月 31 日
研究責任者：日本医科大学千葉北総病院　消化器内科　西本崇良

（2）研究の意義、目的について

潰瘍性大腸炎（UC）は、大腸粘膜の炎症に伴って、下痢や血便、腹痛などの消化器症状を引き起こす原因不明の慢性疾患であり、多くの場合では寛解と再燃を繰り返し、再燃時は状態次第で入院加療が必要になります。再燃時の寛解導入療法では、傷害粘膜への負担軽減の目的で，腸管安静のため絶食管理とすることがあります。しかし、絶食による腸管安静が UC の寛解導入に与える影響に関しては不明な点が多いのが現状です。そこで、増悪期の UC 患者における食事摂取が寛解導入に与える影響を明らかにすることを目的とします。

（3）研究の方法について（研究に用いる試料・情報の種類）

2010 年 1 月 1 日から 2019 年 7 月 31 日までに日本医科大学千葉北総病院消化器内科にて、潰瘍性大腸炎のために入院治療を受けられた患者さんの寛解導入に対する食事の影響についての検討を行います。
この研究は、患者さんの以下の試料・情報を用いて行われます。
試料：なし
情報：年齢、性別、潰瘍性大腸炎の病型、入院日から寛解導入までの日数、流動食・固形食の日数、入院時と退院時の排便・血便の状況、入院時と退院時のアルブミン、総蛋白、血算（分画）、CRP、入院時と退院時の体重、入院から食事再開までの日数、治療内容、退院時点での寛解の有無、入院経過中の再増悪の有無、食事摂取後の再増悪の有無、TPN による高カロリー輸液の使用の有無

（4）個人情報保護について

研究にあたっては、個人を直接特定できる情報は使用されません。また、研究発表時にも個人情報は使用されません。その他、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針（文部科学省・厚生労働省）」および「同・倫理指針ガイダンス」に則り、個人情報の保護に努めます。

（5）研究成果の公表について

この研究成果は学会発表、学術雑誌などで公表します。

（6）問い合わせ等の連絡先

日本医科大学千葉北総病院　消化器内科　助教　西本崇良
〒270-1694 千葉県鎌苅 1715
電話　0476-99-1111（午前 9 時から午後 5 時）